

2. 病院紹介

救命救急医療「充実した受け入れ体制」



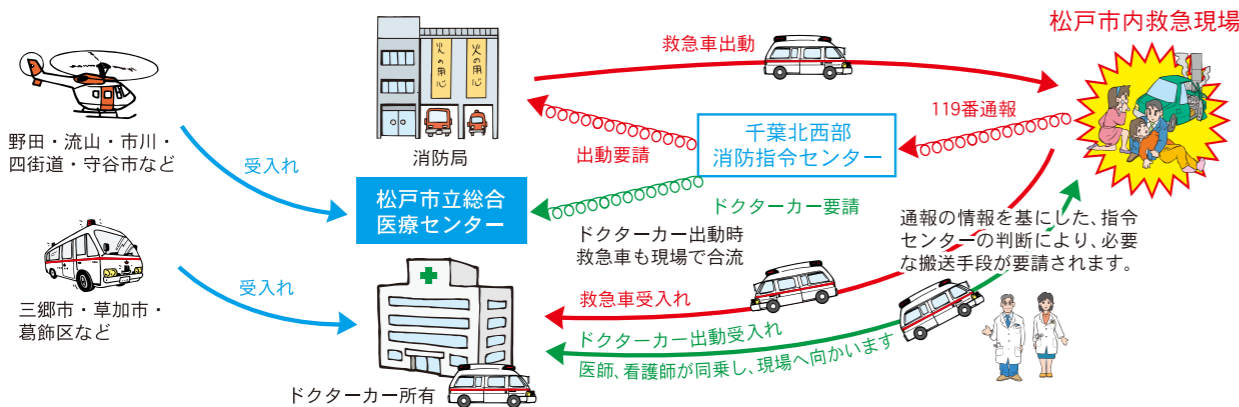
東葛北部保健医療圏の要となる三次救急病院として、千葉県内だけでなく、東京都、埼玉県など隣接する都県からも最重要救急患者を受け入れています。
ヘリポートを所有し、救急車やドクターカー、ドクターヘリにより運ばれてくる一刻を争う重症患者の受け入れ体制を整えています。

ICU・HCU・手術室を同フロアに配置し、術後24時間連続監視のもと迅速な救急処置を行います。



救急対応の主な流れ

消防職員の協力のもと、当院医師、看護師が直接ドクターカーで現場へ向かい、命の危険のある患者さんの医療行為を行います。



チーム医療「多職種で患者を支える」

コロナ禍における、重点医療機関としての役割

新型コロナウイルス感染症患者への対応

当院は、千葉県から新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受け、感染拡大当初より、市民の皆さんをウイルスから守るべく奮闘してきました。また、病床確保計画を定め、感染状況に応じたフェーズごとに確保病床等を設定しています。重点医療機関として36床、一般医療機関として6床確保しており、新型コロナウイルス感染症患者に対する確保病床数は42床となります。

救命救急センター

三次救急医療機関かつ、重点医療機関であることから、脳卒中や心肺停止などの重篤な患者さんを受け入れながら新型コロナウイルス感染症と闘ってきました。

当院は、近隣医療機関では対応困難な重症呼吸不全に対応できる設備とスタッフを擁しているため、松戸市内にとどまらず、東葛地区全域からコロナ重症患者を収容してきました。

特に最先端の呼吸不全治療法であるECMO(エクモ)については、多くの患者さんに対応してきました。

県内トップクラスであるとともに、全国600以上あるコロナ感染症対応医療機関でも上位に入る実績です。

また、その離脱率・生存率についても全国平均を上回る成績をあげています。



ICU(集中治療室)

感染症内科

令和3年4月から新たに感染症内科が加わりました。感染症内科では、入院中の患者さんの感染症の治療や院内の感染予防と対策を行い、患者さんが安心して入院生活を送れるよう努めています。

① 感染症の治療

院内の細菌・ウイルス真菌などによる感染症を各診療科と連携の上で治療しています。また、最も効果があると考えられる抗微生物薬を使用していただけるよう、各診療科へ情報提供を行っています。

② 院内の感染予防と対策

新型コロナウイルスや薬剤耐性菌などが院内で広がることは、患者さんの健康を守る上で大きな問題となります。事態を未然に防ぐために、適切な感染対策を立案、実施しています。

また、万が一にも感染が広がってしまった場合は、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師など多職種から構成されるICT(インフェクション・コントロール・チーム)と連携し、速やかに原因の分析を行うとともに改善案の立案も行い、早期の終息を目指します。

③ 地域支援の取組み

令和4年度においても猛威を奮う新型コロナウイルス感染症に対して、感染症内科医師と感染管理認定看護師が千葉県のクラスター等対策チームの一員として活動しています。

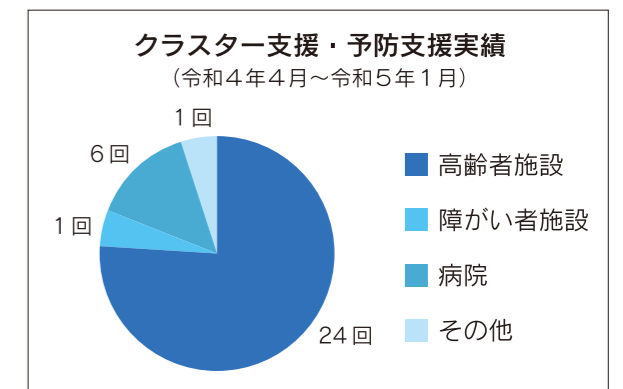
クラスター発生後の支援だけでなく予防支援といった形でも高齢者施設等を中心に、病院に対しても積極的に感染対策の助言等を行っております。

令和4年度実績(1月9日時点)で松戸市内における支援のうち9割以上を担いました。千葉県全体で見ても最も支援活動回数が多い医療機関です。

新型コロナウイルス感染症患者 入院状況

	R1	R2	R3	R4	累計
新入院患者	14	304	370	425	1,113
うち松戸市民	6	203	244	231	684

※令和元年度は2月・3月実績 令和4年度は4月～12月実績



小児・周産期医療 「子どもの未来を守る」

千葉県東葛北部保健医療圏の地域周産期母子医療センターとして



NICU (新生児治療室)

産科と新生児科を同フロアに配置し、赤ちゃんや産後のお母さんの不測の事態にも迅速に対応できます。また、NICU・GCUは、赤ちゃんにとって望ましい胎内環境に近づけるため、やわらかい間接照明による24時間調光・調色制が特徴のサーカディアンリズム照明を導入しています。



PICU (小児集中治療室)

救急疾患や重症外科手術後など、院内外問わず、24時間受け入れ体制で小児集中治療を行っています。当院には、小児救急看護、小児集中ケア看護の専門的知識を有する多くの認定看護師が在籍し、医師・コメディカルと共に、質の高い医療を提供しています。



※撮影のため、マスクをはずしている場合があります。

がん医療 「総合力を生かしたがん治療」



地域がん診療連携拠点病院として、検診によるがんの早期発見から、診断・治療・緩和ケアまで、地域の医療機関との連携を図りながら、当院の強みである総合力を活かし、患者さんを支えます。



内視鏡センター

検査や処置のライブをモニターリングにより院内で共有することで、さらなる安全性と医療技術の向上を図り、がんの早期発見にも繋がります。



放射線治療

放射線治療専門医が常勤し、3次元治療計画による高度な放射線治療を実施しています。VARIAN True Beamの導入により高精度放射線治療が実現可能です。病巣に放射線を集中させ、効果が高く副作用の少ない、人に優しい放射線治療を目指しています。



緩和ケア

がんなどの命を脅かす病気と直面している患者さんとそのご家族に対して、診断時から痛みなどの身体的苦痛、不安や悩みなどの精神的苦痛、家庭上での社会的苦痛などをできる限り緩和して生活の質の維持・向上を目指しています。



化学療法

外来化学療法室のベッドを20床稼働し、常に医師及びがん化学療法認定看護師と乳がん看護認定看護師を含むスタッフが治療にあたっています。家庭の事情や社会的な背景を踏まえた上でのきめ細やかなケアを行っています。

診療科紹介（専門診療紹介）

千葉県東葛北部医療圏の中核病院として、小児・周産期医療・三次救急を含む救急医療、がん医療をはじめ、経験豊富なスタッフが、各専門分野の強化に務め、さらに地域医療に貢献していきます。

■内科（腎疾患）

当院の腎疾患は、慢性腎炎からネフローゼ症候群、膠原病による腎疾患、糖尿病性腎症等幅広く診療しています。腎生検は、年間30例程度です。病理は当院の専属の病理医が診断します。

維持透析が必要となった患者さんには、地域の病院と連携を取り診療しています。

■総合診療内科

診療情報提供書を持たず受診された内科系疾患の患者さん、どこの診療科を受診したら良いのかわからない患者さんの初期診療を担当しております。

当科で対応可能な疾患であればそのまま治療を行い、専門医の診察が必要な場合には、当該科と連携し診療にあたっています。

■感染症内科

細菌や真菌、ウイルスなどの感染症の診断・治療を各診療科と連携して行っています。

また、安全に医療従事者が診療、患者さんが療養できるよう、病院全体の感染対策を推進しています。

■血液内科

一般的な良性の血液患者に対する治療の他、造血器腫瘍に対する新規薬剤を使った抗がん剤治療や自家移植などを行っています。

■内視鏡センター

消化器疾患を中心に、内視鏡を用いた診断・治療を行っています。地域がん診療連携拠点病院として、より高いレベルのがん診療を目指しています。消化器がんの特化したがん検診をご利用いただき、がんの早期発見にも繋げていきます。

■糖尿病・代謝・内分泌内科

糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患などの代謝内分泌疾患はさまざまな病気の基礎で、また多くの人が罹りうる疾患です。

当院は東葛北部ではかなりの比率の診療依頼、相談が寄せられている基幹病院です。医師以外にも多職種によるチーム医療が必要で、多くの職員と研鑽を積みながら、地域の診療の一助となるべく取り組んでいます。

■アレルギー科・リウマチ科

免疫学の進歩が次々と臨床応用されている分野です。新薬も多く登場し、患者さんの予後が改善していることを実感できます。

しかし未だ有効な治療のない病態や診断そのものが困難な症例も多く、まだまだチャレンジすることの多い分野です。

■リウマチ膠原病センター （内科・整形外科）

東葛地域において内科、整形外科のリウマチ学会専門医が複数名常勤する唯一の施設です。

重症のリウマチ、膠原病症例から手術症例まで、ほぼすべてのリウマチ性疾患に対応が可能です。

また、さまざまな合併症を持つ症例に対しても、院内各科との連携を図りながら診療を行っています。

■消化器内科

消化管と肝胆膵いずれに対しても対応できる体制を整えています。消化管では、上下部内視鏡、内視鏡治療、超音波内視鏡を、肝胆膵では、内視鏡的胆膵管造影、ラジオ波焼灼療法に加え、血管塞栓術なども行っています。

心血管センター

平成27年3月に心血管センターを開設し、「ハートチーム」として、24時間体制で、コメディカルと協力し患者さんにとって最も適した治療の提供を心掛けています。

■心臓血管外科

当科は1971年に「外科」の一部として診療を開始して以来、当地域の循環器疾患の外科部門を担当してきました。

心臓血管外科分野の進歩は著しいものがあり、当科でも新しい知見も取り入れ日々診療に当たっています。

現在、心臓病センターの外科部門として循環器内科、麻酔科、放射線治療科など関連する各科と「ハートチーム」を形成し、密接に協力しながら心臓疾患、血管疾患の外科治療を行っています。

■循環器内科

あらゆる循環器疾患を対象として高度医療を提供しています。当院は三次救急医療機関であり救急科とも連携し心停止、急性心筋梗塞、重症心不全などの急性期治療も行っています。



■脳神経内科

入院加算できる東葛北部地域の病院として、脳梗塞を中心とした神経救急疾患から神経難病まで幅広く診療を行っています。

■化学療法内科

患者さんの状態を問わず、全ての種類のがんの治療に取り組んでおり、「断らない」、「見捨てない」姿勢を取っています。

あらゆる種類の抗がん剤の使用経験を基盤に、新規治療法についても情報を収集し、できる限り早く導入し、「最大限の有効性と最小限の負担」を目標に掲げています。

■脳神経外科

脳神経内科、小児脳神経外科とともに神経系当直を組み、24時間手術可能な体制を整えています。

主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などに対する開頭手術、血管内手術を行っており、年間130件前後の手術件数となっています。

未破裂脳動脈瘤や頸部内頸動脈狭窄症に対する予防的な治療も積極的に行っています。



外科・消化器外科・乳腺外科

消化器（消化管・肝胆膵など）・乳腺の悪性疾患に対する手術を中心に治療を行っています。

胆石やヘルニアなどの良性疾患に対する手術にも力を入れており、胆のう炎、虫垂炎や消化管穿孔などの外科緊急疾患などには迅速に対応しています。

どの領域にも積極的に腹腔鏡を取り入れており、最新の腹腔鏡手術装置を導入し、さまざまな疾患に対する手術を行っています。



令和5年1月、手術支援ロボット(da Vinci)による手術を開始しました。

緩和ケア科

がんと診断された時から終末期の状態まで必要に応じて対応をしています。都内等の病院に通院されていた方や通院が難しくなった方の対応も行っています。近隣の在宅医療への紹介、緩和ケア病棟への転院など地域連携にも努めています。

呼吸器センター

呼吸器センターは、呼吸器内科と呼吸器外科を中心に、放射線治療科や病理診断科と連携を図りながら、呼吸器疾患に対しての治療を行っています。

呼吸器内科

気管支・肺、胸膜などの呼吸器系の疾患を扱います。腫瘍性疾患（肺がん・胸膜中皮腫）、肺炎・胸膜炎など感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気胸など多岐にわたります。



呼吸器外科

肺がんや自然気胸の手術療法を主体とした診療を行っています。これらに対する手術では、ほぼ全例で胸腔鏡を使用しています。また、縦隔腫瘍や、膿胸などの炎症性疾患に対しても積極的に胸腔鏡を使用して、低侵襲な手術を心掛けています。



人工関節センター（整形外科）

関節リウマチや変形性関節症が進行すると、痛みにより、歩行困難となりますが、人工関節置換術は傷んだ関節の機能を劇的に改善させる画期的な治療法で、傷んだ関節を金属や特殊なポリエチレン、セラミックなどの人工物に取替え、関節の痛みを取り除き、日常生活を取り戻せます。一人ひとりの患者さんに最適な治療を受けていただけるよう、最適な手術方法を心掛けています。

脊椎脊髄センター（整形外科）

これまで30年以上にわたり数多くの脊椎脊髄疾患の専門治療を行っており、毎年120～150件の脊椎脊髄手術を行っています。東葛北部地区の基幹病院として、ナビゲーション手術、脊髄腫瘍などの顕微鏡手術、上位頸術、脊椎外傷手術、最小侵襲手術（MIST）も多数行っています。

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、超早期からのリハビリテーションとして、発症直後や手術の前後から介入を行い、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし多職種で取り組んでいます。

勉強会やカンファレンスなども開催し、患者さんにより有益なリハビリテーションを提供できるよう尽力しています。



耳鼻いんこう科

耳、鼻、喉、頸部の疾患を診療しています。これには、聴覚、嗅覚、味覚といった感覚だけにとどまらず、呼吸、発声、嚥下などの日常生活を送るうえで重要な機能にも深くかかわります。

耳鼻いんこう科の常勤医がいる総合病院が少ないため、一般疾患や頭頸部良性腫瘍を中心に幅広い疾患を取り扱っています。



小児整形外科

少子化により子どもを診る整形外科医が少なくなっています。当院では、先天股脱、ペルテス病、大腿骨頭迂り症など小児股関節疾患を中心に、筋性斜頸、内反足などの小児整形外科疾患全般について診療しています。当院で対応できない際は、近隣の小児専門病院をご紹介し、最善の治療が行えるように努めています。

眼科

主に白内障の手術を中心に、網膜疾患に対する硝子体注射なども行っています。

斜視、弱視訓練については、視能訓練士との万全な連携体制で診療を行っています。



泌尿器科

悪性腫瘍や救急疾患を主に診療を行っています。疾患の診断、急性期の治療から悪性腫瘍の緩和ケアまで幅広い治療を行っています。

入院は、腹腔鏡下の悪性腫瘍手術、内視鏡下の尿管結石手術を多く行っております。

形成外科

当院は新生児・小児医療が特に充実していることから、先天奇形から外傷まで、小児形成外科手術を数多く扱っています。また、三次救急医療機関であることから、重度の顔面骨骨折やさまざまな外傷、重症熱傷の症例も多く扱います。新専門医制度においては千葉大学専門研修プログラムに所属し、大学と連携して充実した専門医育成を行っています。

皮膚科

入院の適応となる症例を中心に皮膚科全般を診ています。

特に、総合病院でなければ治療しにくい、難治性の皮膚疾患の診断と治療に重点をおいています。

周産期母子医療センター

平成28年4月から、東葛北部保健医療圏で唯一の地域周産期母子医療センターに認定され、ハイリスク分娩や切迫早産などのリスクを伴う出産を積極的に扱い、地域と連携をとりながら周産期医療を支えています。

産婦人科（産科）

分娩数約800件のうち半数は切迫早産、妊娠高血圧、合併症妊娠などのリスクを伴い帝王切開率は約50%です。

産後の危機的出血や社会的ハイリスク分娩の患者さんなど産後も含め、お母さんのサポートも行っています。



新生児科

出生体重が1000g未満の児や、先天的な病気を持って産まれた児の治療を行っています。

新生児集中治療を行うNICUは、新生児を専従とする専門的治療の行える常勤医師がおり、近隣地域の早産などの分娩を産科と協力し担っています。



産婦人科（婦人科）

地域がん診療連携拠点病院として年間約50件の悪性腫瘍の集学的治療に対応しています。子宮筋腫・卵巣嚢腫・子宮脱・子宮外妊娠などの良性疾患の手術は年間約400件行っており、腹腔鏡下手術や腔式手術も積極的に行っています。多くの研修やハンズオンセミナーを取り入れて若手医師の育成に努めています。

※撮影のため、マスクを外している場合があります。

麻酔科

手術室の麻酔管理を行っています。通常的一般麻酔に加え、小児、救急、心臓、呼吸器、産科など、専門分野の麻酔を多く管理しています。

年間2600件近くなります。今後、緊急疾患の増加が予想され、全身管理は、各科と、コメディカルの共同作業が多くなります。麻酔科外来では、手術予定者の合併症の把握、コントロールの相談に応じています。

小児医療センター「無限の未来のあるこどもたち」

医師・看護師・コメディカルによるチーム医療を大事にしながら、「無限の未来のあるこどもたち」に関わる小児医療センターです。千葉県小児医療の中核病院として、千葉県北西部の広域医療圏における高度で専門的な医療を地域の医療機関と連携をし、お子さんの治療を24時間体制で対応しています。



小児科

全国でも約40しかないPICU（小児集中治療室）を有し、東葛北部だけでなく千葉県内の最重症小児患者さんに対応しています。また多様な専門医をそろえており、難病の治療にもあたっています。



小児外科

当院は小児科、新生児科に集まってくる患者さんも多いので、手術件数は全麻下の処置、内視鏡なども合わせると年間約350件のほり、東葛北部圏内では最多です。県内でも比較的多くの症例を診ており、手術以外の方法も含めお子さんごとに最適な治療を考え、選択しています。

小児脳神経外科

当科には、全国でも約250人しかいない小児神経外科学会認定医を取得した医師を含む常勤2名で診療にあたり、胎児を含む18歳以下の子どもたちに発生する脳、脊髄、脊髄、末梢神経疾患の診断と外科治療を担当しております。主に脳髄膜腫瘍、頭蓋縫合早期癒合症や二分脊椎などの奇形疾患、頭部外傷、水頭症などを重点的に診療しています。

一人ひとりの子どもたちがその子らしく生きるために、その子に合った医療を考慮し、提供しています。



小児心臓血管外科

当院では1971年の動脈管閉鎖症閉鎖術に始まり、第1例目の開心術は1972年に心室中隔欠損閉鎖術が施行され、手術は2000例になり、東葛北部の小児循環器医療をささえています。

また、最近増加傾向にある成人先天性心疾患の治療にも積極的に取り組んでいます。

小児麻酔科

小児の麻酔管理の経験も豊富で、一般的な小児手術から新生児手術、脳や心臓の手術といった高度な特殊手術まで幅広く対応しています。手術前からお子さんとその保護者に介入し、アプリツールを活用した取り組みや、術後の痛みの管理も積極的に行い、スタッフ全員でサポートしています。

救急科

東葛北部保健医療圏の要となる三次救急病院として外傷・心肺停止の他、敗血症や熱傷など集中治療を要する重篤な患者さんの初期対応と入院治療を行います。ドクターカーの運用、新病院開院後からは、ドクターヘリの受け入れなど成人・小児重症患者への医療体制を強化しました。

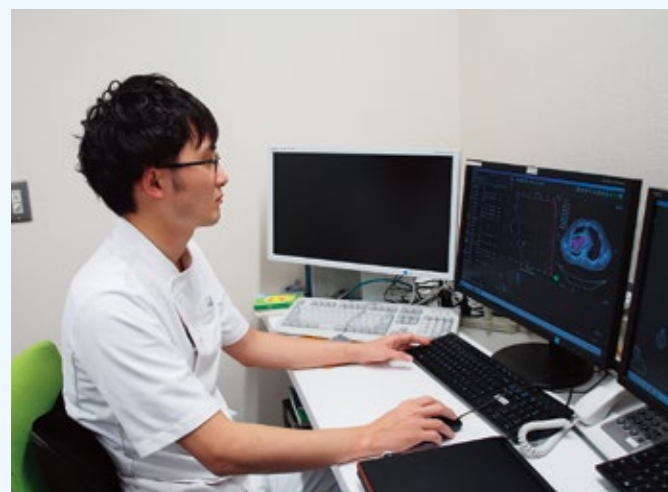
また、新型コロナウイルス感染症が流行してからは、第二種感染症医療機関、かつ重点医療機関として、ECMOを複数稼働し、コロナ感染症患者の命を多く救い、最前線で診療を行っています。



放射線治療科／放射線診断科

放射線科は、画像診断、放射線治療、核医学を3人の専門医が担当しています。画像診断は主にMRI・CT診断、放射線治療はリニアックによる高精度放射線治療が実施可能です。核医学はSPECTによる画像診断です。

令和2年春から、定位放射線治療を、秋には強度変調放射線治療を開始し、臓器の負担を少なく、かつピンポイントに集中して当てることで治療の効果があがります。患者さんにとって負担の少ない治療です。



精神科

平成20年4月から精神科の医師不足により、やむを得ず現在、外来診療を休止しています。当院は、急性期を担う総合病院の使命として、精神疾患を患う患者であっても、救急や合併症の患者については、受け入れの態勢を整えています。

歯科口腔外科

当科は、一般歯科診療と異なり、事故等による口腔顎顔面の外傷や、口腔腫瘍、のう胞など、重症な患者さんへの専門的治療を行っています。

入院中の患者さんの手術前後の口腔ケアを行い、感染や肺炎のリスク、合併症の発症、抗がん剤や放射線治療副作用を予防する効果を高め、質の高い口腔ケアを提供しています。

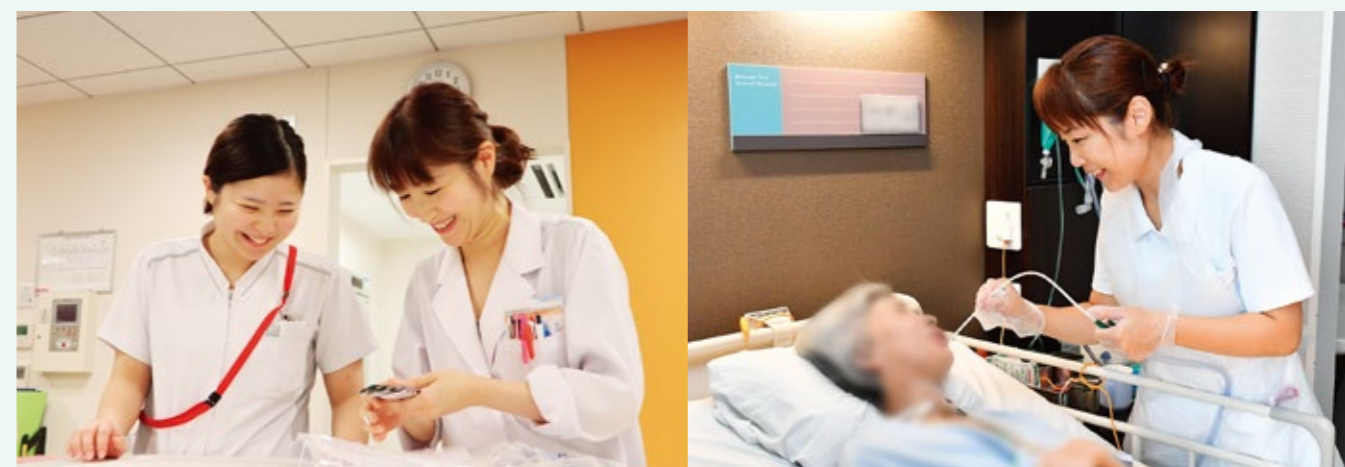
病理診断科

病気の診断確定に直結する、細胞診断・組織診断・病理解剖を取り扱っています。熟練した技師や複数の常勤病理専門医に加えて、専門分野に長けた非常勤病理専門医を招聘することにより、早く・正確かつより詳細な病理診断を行う体制を整えると共に、各診療科における適切な診断と治療に貢献できるよう心掛けています。

※撮影のため、マスクを外している場合があります。

コメディカルスタッフ

～医師と共に活躍するコメディカルスタッフ～



看護師	助産師	保健師
薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師
臨床工学技士	管理栄養士	社会福祉士
理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
臨床心理士	視能訓練士	歯科衛生士
保育士	診療情報管理士	救急救命士

チーム医療

～多職種で患者さんを支える～



栄養サポートチーム	RST/呼吸サポートチーム	認知症ケアチーム
緩和ケアチーム	せん妄 ^{ちゆう} ハイリスクケアチーム	ICT抗菌薬適正使用支援チーム
FAST家族支援チーム	褥瘡 ^{じよくそう} 対策チーム	骨粗鬆症 ^{こつそしょうしょう} リエゾンチーム
排尿ケアチーム		

高度医療機器

疾病の早期発見を可能とする高度医療機器を設置し、患者さんに負担の少ない最先端治療を提供します。

治療

血管造影装置(アンギオグラフィ)



造影剤を注入しながら目的の部位にX線を照射することで、血管の様子をリアルタイムに映し出すことができます。腹部・脳血管用、心血管用を各1台所有。

放射線治療装置(リニアック)



腫瘍に対する高エネルギーの医療用放射線を照射します。1台所有。

ECMO(エクモ)



人工肺とポンプを用いた対外循環回路による治療を行います。6台所有。

手術

手術用顕微鏡



主に眼科や脳神経外科手術に使用します。3台所有。

ナビゲーションシステム



整形外科や脳神経外科手術中の術野内での位置情報を表示する手術支援装置です。3台所有。

手術支援ロボット(da Vinci)



内視鏡手術用の手術支援ロボットです。精細なハイビジョン3D画像を見ながら、人間の手よりも自由度が高く、精密な動きが可能となるアームの先端を生かして手術を行います。1台所有。

検査

磁気共鳴画像診断装置(MRI)



強力な磁石と電波を使い、体の内部の断面をさまざまな方向から画像にします。2台所有。

全身コンピューター断層撮影装置(CT)



体の周囲からX線をあてて、体の中の吸収率の違いをコンピューターで処理し、体の断面を画像にします。データを用いて三次元(3D)画像を作成することができます。3台所有。

全身型骨密度測定器



DEXA(二重エネルギーX線吸収測定)法にて、主に腰椎、股関節を測定します。骨折リスクの評価に適しています。1台所有。

核医学検査装置(SPECT装置)



特定の臓器や組織に集まりやすい性質を持った放射性医薬品を使って、放射線(ガンマ線)をガンマカメラで画像化します。2台所有。

移動型デジタル式汎用X線透視診断装置



整形外科や泌尿器科の手術時に用いられます。3台所有。

受託検査の実績件数

当院では、他の医療機関から検査のご依頼を受け付けております。

検査名	地域	実績件数				
		H30	R1	R2	R3	
CT・MRI検査	市内	161	237	199	168	170
	市外	6	1	3	2	
腹部超音波・内視鏡検査	市内	66	99	59	81	81
	市外	0	0	0	0	
核医学検査	市内	50	75	42	74	148
	市外	49	71	57	74	

「ホスピタルアート」

病院内には近隣の松戸市立第六中学校の生徒によるホスピタルアートを展示



2階 ホスピタルストリート

廊下の左右の壁に
アートワークが展示される。
ホスピタルストリートを飾るアート
「ねぎ畑」(左)と「大地」(右)



1階ホスピタルストリート「水」



エスカレーター壁面「成長の木」

コンセプト

「愛 編む 笑顔～I am smiling」

ほほえみ 愛・・・成長の木

ささえ 愛・・・大地

つながり 愛・・・水、ねぎ畑

イベント

クリスマス



県立松戸高等学校 吹奏楽部



小児病棟クリスマス会

院内コンサート



グランドピアノ寄贈記念コンサート



医療スタッフ有志によるコンサート

ライトアップ



世界糖尿病デー・世界骨粗鬆症デー

看護の日



看護師によるハンドマッサージ

※現在は感染防止のため休止している場合があります。

災害拠点病院としての備え



非常時にはホスピタルストリートに患者さんを収容

ホスピタルストリート

災害が発生した際、ホスピタルストリートに多くの患者さんを収容できる設計となっております。1階通路壁面には、酸素の供給や、気道内分泌物の吸引を可能とした配管を設置しており、災害時には患者さんをトリアージするエリアとして活用されるなど、災害拠点としての機能が強化されました。

地域災害拠点病院として

近年の大震災の教訓を受けて、都道府県ごとに災害時における救急医療体制強化病院が整備されております。東葛北部保健医療圏では当院を含む3つの医療機関が指定されています。いつ発災するかわからない災害時に備え、職員が参加する実践的な大規模災害訓練を重ねています。

地域災害拠点病院とは

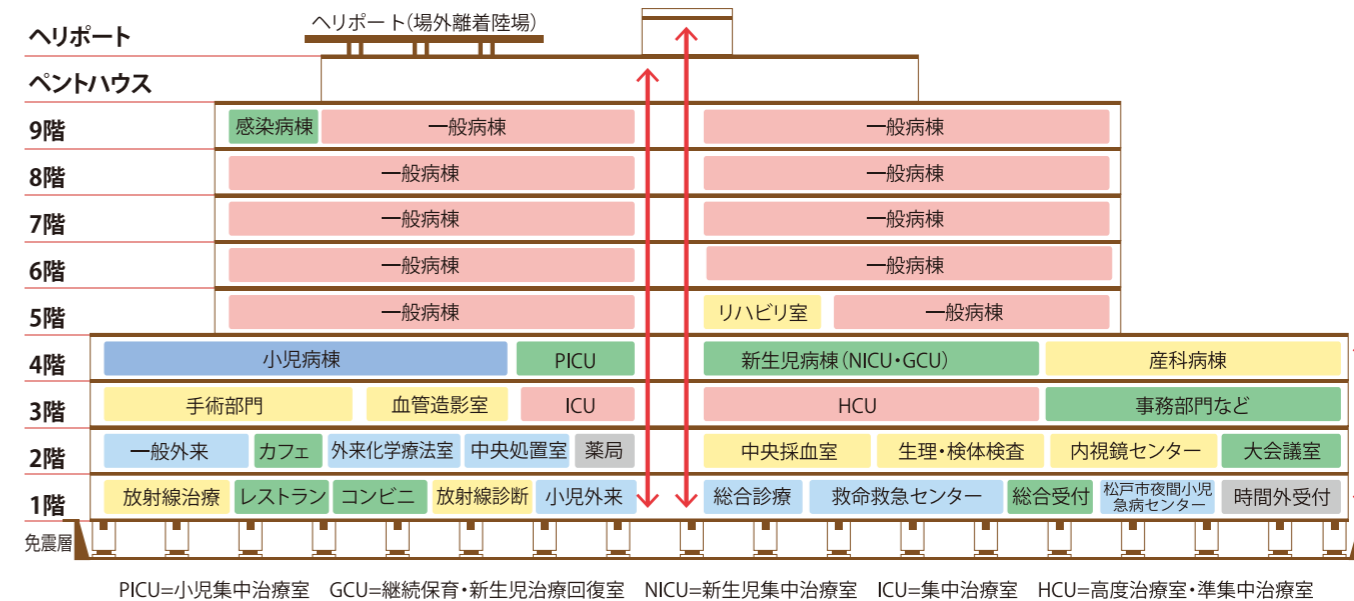
災害拠点病院は、災害時に地域の医療機関を支援するさまざまな機能を有する病院です。重症・重篤な傷病者を受入れるなど、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院として位置づけられています。

1. 救命医療を行うための高度診療機能
2. 被災地からの重症傷病者の受入れ機能
3. 傷病者の広域後方搬送への対応機能
4. 医療救護班の派遣機能
5. 地域医療機関への応急用医療資機材の貸出し機能



災害救護訓練の様子

設備紹介



94基の免震装置

免震装置は、地震による揺れを吸収・軽減させる設備です。

震度6程度の地震が発生しても、さまざまな医療行為を中断することなく継続対応が可能な設備となっています。

■災害時必要な機能

電気設備	非常用発電機運転時間：72時間（燃料タンクの備蓄）
衛生設備	飲料水の備蓄：3日分 排水貯留能力：3日分（排水槽を設置）
空調設備	重要諸室及び一般病室の冷暖房設備及び換気設備を発電機対応
医療ガス設備	トリアージエリアに緊急用の酸素・吸引アウトレットを設置 発電機による全面的なバックアップ